

JAXA の坂本氏が資料 6-2(PLANET-C メッセージ)を 14 分程で説明した後、今村プロジェクトサイエンティストを加えて 8 分程の質疑応答があった。(昨年の定例会議で応募数が少ないと云う報告が行われたが、締切を 2 週間延ばした事や緻密な努力の蓄積で 26 万名のメッセージが集まった。SELENE の時に 41 万名だったのよりは少ないが、概ね満足できる結果になった。SELENE との差の大きな原因は、米国惑星協会の援助による外国からの参加が少なかった事で、IKAROS に参加者が流れた事などに因る。)

野本: 前にご報告いただいた時にはどうなる事かと思ったんですけども、其の後、坂本さん随分御苦労なされたみたいで、...

JAXA 坂本: いえ、前からやって居ります。

野本: まああの、此の数になったと云うのは、非常に皆さんのご苦労の賜物だと思うので、ホントにご苦労さまでした。それであの、惑星協会の方が減っていると云うのは、此れはアメリカでの関心が薄れてると云う事なんでしょうか。それとも惑星協会がそれほど大きく力を入れてなかったって云う事なんでしょうか。

JAXA 坂本: はい、エエト、先ず此の種のキャンペーンは世界的に凄く頻度が増えて居ますので、先ずあの、此れは惑星探査への興味と云うよりはキャンペーンの盛り上がりが段々下がって来て居ると云うのは、此れは事実だと思います。それから後、今回此の外国での取り組みが弱かったのはで

すネ、実は現在並行して IKAROS とアメリカ、此の惑星協会で行っているライトセイルの、合同のキャンペーンを行っています。で、ライトセイルと IKAROS のキャンペーンは此の惑星協会にとっては当事者ですので、其れが上に上がって来るんですネ。で、エエ、今回其のコラボレーションが固まるまで、実は此の「あかつき」のキャンペーンの話を持って行かない様にと云う様な、まああの、そう云う IKAROS の方も上手く盛り上げて行かなきゃいけないと云う事で、少しく、国内外での取組のウェイトを変えたと云う事で、今回は国内、特に団体の此の寄せ書きに拘ったと言うか、名前だけで軽くやってくと云う手も、数を伸ばすって云う観点では、あったんですけども、やっぱり斯う、メッセージを書いて貰う、手数を掛けて貰う事に依って、此の金星の探査と云う事をより深く、特に子供たちを重点的に植え付けて行きたいと云う、まあ、プロジェクトの強い意志がありましたので、其れに叶う様な形で、私の方でもムニャムニャ。

野本: 此れは先程あの、委員長が打ち切ってしまったのでお聞きしなかったんで、今村さんにお聞きしたいんですが、前の資料の 7 頁に「全世界の惑星気象研究者」とあるんですけども、あの、惑星気象と云った場合、何故「金星気象」と言わずに「惑星気象」と言うんですか。

JAXA 今村: はい、其れはですネ、偏(ひとえ)に斯う云った気象学、特にその割合原理的な処に関心を持って研究をする様な研究者った云うのは、もう惑星横断的にやってるんですネ。ですから、金星気象学の研究者ってのが居るかっ

て云うと、そんな事はなくて、大体金星やってる人は火星もやってれば木星もやってるって処が、私自身もそうですし、まあ、そう云った事もあって、あの、まあ敢えて惑星気象研究者って云う事を書いていますし、此の探査機にしても金星気象学ミッションであるんですけども、一方で惑星気象衛星であると言う様な言い方をしています。まあ、其れはそう云うバックグラウンドがあるんですネ。

野本: 惑星気象研究者って云うのは日本で何名位、全世界で何名位。あの勿論、ダブっていると思うので、明確には分からないと思うんですが。

JAXA 今村: 例えば日本国内で此の「あかつき」ミッションに関係していて、斯う云った観測の計画或いはデータ処理について議論している研究者はどれ位居るかって云うと、そうですネ、ま、100人は居ないけどまあ数十人の上の方。あとまあ、世界的にもあの、勿論アメリカやヨーロッパは惑星探査では先に進んでいますので、其れなりの数は居ます。一寸数を咄嗟にあの、申し上げられないんですけども。

野本: あの、それで、昔何か聞いた様な気がするんですが、惑星気象をやってる人は昔地上で、地球の気象をやった方が随分惑星の気象に移られたって云う風に聞いたんですが、そうでしょうか。

JAXA 今村: はい、あの、そう云う面もあります。例えば今回「あかつき」ミッションで、...まあ、此れ、研究者って言う時に二通りありまして、一つはデータを処理したり或いは理論的な研究をする研究者、もう一つは観測装置の開発に主体的に

関わる研究者って事で、まあ、乱暴に分けると二通りあるんですけども、今回「あかつき」ミッションでハードウェアの開発から関わってる様な研究者って云うのは、まあ、此れまで日本は惑星ミッションをそもそもやってませんから元々地球の観測の為に装置を開発して来た様なメンバが主に其処を担っています。そう云う意味では地球から惑星へという流れであります。で、一方で、理論的な事或いはデータ解析の立場で関わっている研究者に関しては、そうですネ、あの、元々そう云った研究者は地球の気象をやっていた人が多いんですけども、大体そう云う研究者は地球の気象をやりながらも、元々惑星の中の、惑星としての地球と云う観点で研究して来ているので、まあ地球から惑星に行っただって云う言い方が妥当かどうかは怪しいですネ。あの、色々な方が居ますけども。

野本: 有難う御座います。それと御免なさい、折角キャンペーンのお話してたのに。

池上委員長: 他に? ...あと此処に在る「著名人とのタイアップの例」ってのは、此れは、あの、何か配るとか売るとかって事はあるんですか。

JAXA 坂本: エエト、販売は現在考えて居ないんですけども、配ると言うかですネ、あの、実際に協力して下さった著名人には、レプリカと云うかフライトモデル同等品をお渡ししたいナと思っています。此れは何故かと言いますと、其れが届いた云う事になると、又、それで其の著名人が例えば自分の出演番組で言ってくれる。で、これ一枚の製作費って

のが 2,000 円とかそんなもんなんですネ。其の効果って非常に大きいと考えています。で、今回例えば相模原市が一万名以上寄せて下さいましたけども、此れも全部で 6 枚のプレートに収まります。此れ、相模原市の貸し切りプレートになっていますけども、其れを 4 月の政令指定都市制定に合わせて戻そうと思ってます。で、そうするとまた、其れが自治体のチャンネルを通じて周知されると云う事で、**此のキャンペーンは一旦締切りましたけども、我々としては此れはスタートだと思っています¹**。で、今、既にまあ種は一回蒔いた訳ですけども、其処に何回も何回も水をやる事に依って、芽を出させて、其れで花を付けたいと云う風に思っています。

池上委員長:それで、此れやっぱり著名人も、あの、ホントに火星に乗って書いたって感じですね、此れ見ると。

JAXA 坂本:そうです。あの、漫画なんかも全てオリジナルです。

池上委員長:オリジナルって云う。やっぱり憧れてると云う処が。

JAXA 坂本:此の、エエ、子供に人気のケロロもですね、あの、チ

ャンと「あかつき」に乗っています。

池上委員長:此れを上手くあの、学校へ配るとかネ、それとさっき相模原市にお渡しするって事で、活用されると良いですね。

JAXA 坂本:有難う御座います。

池上委員長:勿論感謝、著名人には感謝しなきゃいけないんですけどもネ。...他に? ...それじゃ、どうも有り難う御座いました。

¹ キャンペーンを行ったら少しでも多くの参加を得る事を企図するのは自然で、工夫と努力を惜しまない事は肝要である。ただ、参加者数ばかりを追い求める事は如何と思うので、適宜自制する事も考えて頂きたい処である。今回のバランス点についての分析は避けるが、一方、此処で回答した「此れはスタート」と云う一言は高く評価したい。無理をし過ぎると反動が来るものであるが、此の様な活動には反動がないと思われ、大いに力を注いで頂きたい。